

東京バッハ合唱団 月報

【第523号】2006年1月号 <Web版>

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.523
January 2006

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

大きな希望の年 2006年の年頭に思う

大村 恵美子

2006年、おめでとうございます。

この新年は世界にとっても、日本にとっても、そして東京バッハ合唱団にとっても、明るい方向にむかっただけの大きな転換の時期となるにちがいないし、またそうなるよう、すべての人が努力を注がなければならない、と思います。

まず、大量殺戮に突入した米英のイラク侵攻が間違いだったことを、アメリカ大統領がやっと認めました。にもかかわらず謝罪もせずに居直っているわけですが、それでも、イラクの人々の幸福は、占領軍が撤退しないかぎりもたらされない、という自明のことが、世界中のコンセンサスとなったのです。あとはもっぱら、イラクの、より早い治安回復への技術的手腕の問題になります。日本政府も、このコンセンサスを無視する、恥知らずの唯一の国とならないよう、対応に精を出さねばならないでしょう。

9月には、マイナスの問題をけた外れにふやしつづけた小泉政権も終わるので、ここで舵取りをあやまらず、国民の冷静な良識に立ちもどるべきで、一人ひとりが大いに目を見開いて日々進んでゆかなければなりません。

われわれの東京バッハ合唱団の2005年はといえば、2年後の創立45周年記念《マタイ》上演が近づいて、その準備に本腰をいれはじめ、団員の運営参加も度を深め、もろもろの行事すべてが、非常に手ごたえのある成果を残しました。

団員数こそ、それほどふえませんでした。たとえば最後のイベントとなった12月19日のクリスマス祝会には、お客様、団員、小さなお子さんも加えて約40人が集まり、多種類の合唱や、ヴァイオリン、リコーダー、フルート等の楽器演奏も多く、バザーコーナーにも豊富な提供品が並び、お手製の豪華なごちそうと、盛会そのものでした。2日前の定期演奏会の打ち上げの席よりもずっとアットホームでしかも満足のゆく内容だと、評判でした。

これは、準備にあたった団員をはじめ、あらかじめこの日のために心を寄せてくださった多くのサポーター方と、当日の参加者の方々みなさんの、一丸となった結晶だったわけです。閉会の言葉をのべられた森永毅彦さん(団員)もおっしゃったように、この1年、わが合唱団は大きな勢いに乗ってきたという、実感があります。

経済的にも、前号の月報でみじかく呼びかけを行なった直後から、長期後援会員(10年分10万円一括前納)の反応があり、12月20日現在8口80万円が入金されました。

後援会の赤字はただちに解消して、523,783円の残高をもって新年を迎えることになったのです(p.4会計報告参照)。

年が明ければ、新入団員の参加がどっと実現し、毎回の練習も活気づくことでしょう。ただし、「バッハ・カンタータ50曲選」CDの最後の録音となる、5月の第99回定期演奏会が、当面の目標にあります。2007年春の《マタイ》をめざして来られる方々も、同じくらいに重要な、このシリーズ最終録音なので、ぜひ勇気を出して、このチャンスにステージに上がってください。

第99回定期演奏会

2006年5月13日(土)午後4時開演

石橋メモリアルホール

カンタータ第180番《装え心よ 罪のやみを去り》

カンタータ第187番《待ち望む みななれを》

カンタータ第194番《大いなるこの日 新たな宮を》

ソプラノ：光野孝子、アルト：佐々木まり子

テノール：平良栄一、バリトン：佐伯雅巳

さらに、2006年は、ボンヘッファー^(*)生誕100年記念の年にあたりますが、日本でも、ドイツその他の国々から多くの関係者、研究者の方々をお招きして、記念礼拝・講演が行なわれます。これの開催にあたり、日本ボンヘッファー研究会から東京バッハ合唱団に演奏依頼がありましたので、このための準備も、1月早々から始まります>(*ディートリッヒ・ボンヘッファー Dietrich Bonhoeffer 1906 - 1945。ドイツのルター派牧師、20世紀を代表する神学者のひとり。ヒトラー暗殺計画に加担して拘禁され、ドイツ降伏直前に収容所で処刑された。)

ボンヘッファー生誕100年記念礼拝・講演会

2006年3月21日(祝日) 信濃町教会

カンタータ第192番《ああ 感謝せん神に》“Nun danket alle Gott” 第1曲、第3曲(ドイツ語演奏)

オルガン：草間美也子、合唱：東京バッハ合唱団

指揮：大村恵美子

このように、外からの依頼にも全力で応えられるよう、私たちは、自分でも計り知れない力を引き出されて、恵まれた機会に120%生きてゆきたいと思います。日本を明るく、平和の道へ方向づけるのが私たちの使命だと自覚して、大いに努力して、この年をまっとうしましょう。FINE

ドイツ宣教師で中国学の創始者、 リヒャルト・ウィルヘルムのこと

笠原 維信（団員：パス）

1. ドイツの東アジア伝道会と R.ウィルヘルム

リヒャルト・ウィルヘルム (Richard Wilhelm, 1873-1930) は、ドイツプロテスタントの宣教師で中国に派遣され、ドイツにおける中国学^(*)の創始者として有名な人です。

昨年 (2005 年) の 4 月 23 日、「東アジアミッション 120 周年、富坂キリスト教センター 30 周年」の記念会に、東京バツハ合唱団の有志で出演した時に、思いがけずこの名前を耳にしました。ドイツ東アジア伝道会 (ミッション) (略称 DOAM) のパウル・シュナイスイス会長が、アジアにおけるドイツプロテスタントの宣教活動 120 年の歩みを話され、その中で彼の名が出たのです。

R.ウィルヘルムはドイツからアジアに派遣された 5 人の宣教師の一人で、中国の青島 (チンタオ) に赴任しました。彼は伝道よりも中国思想にうちこみ、中国学者 (シノロギスト) になってしまったのです。「私は一人の伝道師として来たが、中国では一人も入信させなかった、そのことを満足に思っている」という言葉を残しました。シュナイスイス牧師は、青島での宣教師の集合写真のスライドを示して、「宣教師としてより中国学者として有名な人です」と紹介していました。

年末に読んだ『当代道教』(李養正編、北京・東方出版社 2000 年) という本の中で、ドイツ人の中国研究がとりあげられ、このウィルヘルムのこと詳しく紹介されていました。ドイツ宣教師のなかでの道教研究のパイオニアはエルンスト・ファーベル (Ernst Faber, 1839-1889) で、それにつづくのがウィルヘルムだということです。偶然にも昨年 2 度の出会いがあったので、彼のことを書かせていただくことにしました。

2. R.ウィルヘルムの経歴

R.ウィルヘルムの経歴は、同書によれば次のとおりです。

1873 年シュトゥットガルト生まれ。チュービンゲン大学で神学を学び、1897 年にプロテスタント教会の副牧師となった。99 年に福音プロテスタント宣教団の派遣で、中国の山東半島南端にある青島 (チンタオ) に設立された教会の主任牧師として赴任した。中国名を衛礼賢と名のり、通算 25 年中国で生活した。この時代は、世界列強の東アジア進出、第一次世界大戦の時期で、青島はドイツと日本の係争の地となった。ウィルヘルムは、戦争にあけくれる欧米諸国の現状に失望し、紛争解決の道を東洋思想にもとめた。青島で中国の伝統思想 (儒教と道教) の研究にうちこみ、孔子、老子、列子、荘子、孟子、礼記、易経などを独訳した。孔子と儒教、老子と道教、中国哲学、中国文化史などについての著書もある。1920 年ドイツ敗戦、第一次大戦終結のあとドイツに帰国した。ここで心理学者 C.G.ユングに会い、易と中国思想を彼に伝えた。ユングの深層心理学は東洋思想の影響を受けているが、易や錬金術の知識は、

彼をつうじて吸収したものである。

1922 年再度訪中し、北京大学の独文教授となり、「東方学社」を中独共同の研究機関として設立した。1924 年に中国の道士、勞乃宣の協力をえて、易経の翻訳が完成した。24 年に任期を終えて帰国し、フランクフルト大学の中国学講座の担当となり、中国研究所を設立、雑誌「中国学報」(Sinica) を発刊した。1930 年チュービンゲンにおいて 57 歳で死去した。

彼の息子がヘルムート・ウィルヘルム (Hellmut Wilhelm, 1905-1990)、青島で生まれ、1933 年から北京大学のドイツ語教師となり、第二次大戦中は北京のドイツ協会で働いた。1948 年アメリカに帰り、ワシントン大学の東方学院の教授となった。『中国思想史と社会史』の著作がある。彼は父の易経研究を欧米に広めた人である。易経の英訳は父の行った独訳からの重訳であり、西欧の易経理解には彼の力に負うところが大きい。

3. キリスト教と中国思想

R.ウィルヘルムの名は、日本では、易経をドイツ語に訳した人として、またユングの友人として知られていて、私の著書『易学入門』でも紹介しています。彼の著書の邦訳は『黄金の華の秘密』(湯浅・定方訳、人文書院。『太乙金華宗旨』という道教書の翻訳) くらいです。ドイツにおける中国学の創始者としての業績はもっと知られていいと思います。また研究業績だけでなく、宣教師としてキリスト教と中国思想との関係をどう考えたか、当時の激動する政治社会状況の中で、国際人として、知識人として、どう生きたかという人間像にも興味をひかれます。

シュナイスイス牧師の話では、東アジアミッションは、設立後第一次大戦までの 30 年と、その後の第二次大戦までの 30 年は、政治社会の混乱と異文化風土のため、困難の多い宣教であり、戦後の 30 年もそれがつづいた。現在はスイスの伝道会 SOAM と一体となって活動方針をかため、韓国、中国もふくむ東アジアの社会倫理や他宗教との対話などをテーマに、研究を行っているということです。

中国をみると、今の体制はキリスト教を受け入れていないし、伝統思想 (儒教・道教) を重んじているわけでもありません。アメリカの大統領が北京に行って、キリスト教信仰の自由、布教の自由を訴えたのですが、中国政府は法輪功問題や辺境異民族の宗教問題などがあって、宗教の自由化には警戒的な態度をとっています。100 年前に R.ウィルヘルムが目ざした、キリスト教と中国伝統思想との共生・融和という理想は、古くて新しい、現代の課題だと思います。

* 中国学 (シノロジー) について:

中国学は、sinology の訳。外国人の中国研究をさす用語で、欧米諸国で 19 世紀から使われています。中国では漢学と呼んでいます。シノロジーの盛んなのは、フランス (道教、敦煌学)、ドイツ (易、老荘思想)、イギリス (科学史)、ロシア、アメリカなど。道教は、中国本土より西欧諸国のほうで関心が高いという不思議な宗教です。

受難曲と美術作品

前号月報(522号、2005年12月号)で、キリスト受難の一場面、「くじを引く兵士」(マンテーニャ「キリストの磔刑」部分)をご紹介しました。

これは後援会員の白木博也氏に選んでいただいたものですが、その折に、2006年の1年をかけて、受難物語にちなんだ美術作品を、連載で紹介していただけないかとお願いしたところ、こころよくお引き受けいただき、今回から始まることになりました。

ボッティチェリの 聖母子像 と ピエタ

ボッティチェリ Alessandro Botticelli (1447-1510)の 聖母子像 Madonna col Bambino と ピエタ Pietà は、いずれもミラノのポルディ・ペッツォーリ美術館 Museo Poldi Pezzoli, Milano にある作品。

この2作に共通なのは、いばらの冠と3本の釘(十字架にイエスの手足を打ちつけたもの)とが示されていることです。聖母子像では、冠をイエスが、釘をマリアがもち、

ピエタでは、中央のアリマタヤのヨセフが両方を掲げています。イエスの誕生が、その将来の使命をすでに予告し、十字架でそれが成就される、その象徴を、ボッティチェリが2枚の絵であざやかに表現したのです。ボッティチェリの全作品中でも、最高級の作品です。



ボッティチェリ 聖母子像

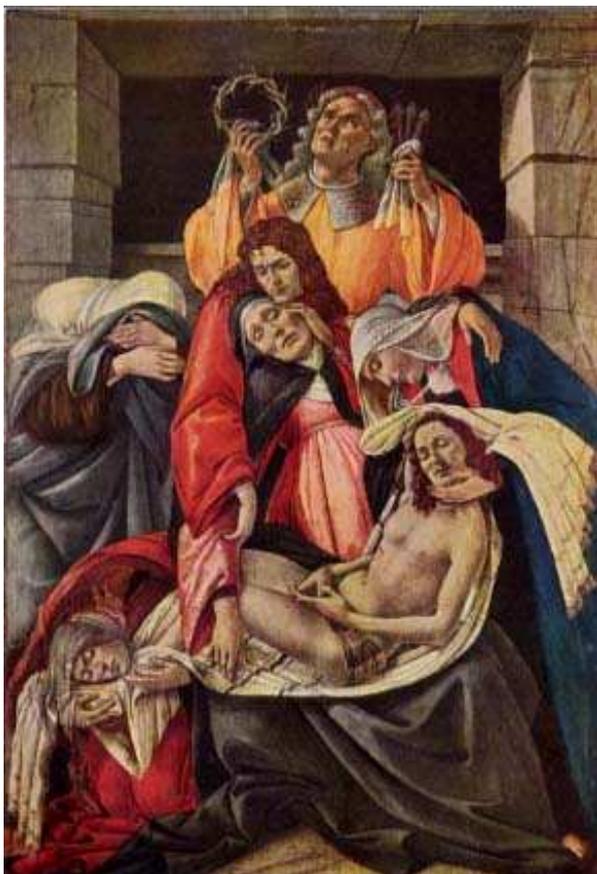
アンケートボックス(第98回定期演奏会)より

2005年12月17日午後4時開演
石橋メモリアルホール

多くの方がアンケートにお答えくださいました。
今後の活動に活かしてまいりたいと存じます。
ご協力ありがとうございました。

<感想>

- ・選曲がよかった。
- ・演奏者も聴衆も楽しんでたのがよかった。
- ・パイプオルガンの荘厳さと、コーラスと、ソプラノ・ソリストの方の声にうっとりしました。
- ・クリスマスらしい内容で、季節にマッチしていた。
- ・たいへん感激しました。合唱がとてもきれいで、涙がでるほどでした。
- ・声量、発音ともにはっきりして聴きごたえ充分でした。
- ・たいへん心洗われ、豊かな気分になりました。
- ・折りしもクリスマス近く、無宗教の私も敬虔な思いを感じました。
- ・日本語訳のやさしさ、曲にぴったりした感じ。とても感動しました。
- ・アンコールの宗教歌曲は、愛の告白セレナーデのように聞こえました。
- ・S光野さん、前回にくらべて表情がよい。やはりニコニ



ボッティチェリ ピエタ

コがいいですね。

- ・心がなごみ、日本語なのでよかった。むずかしそうな旋律もありました。
- ・初めて聞かせていただきましたが、バッハとキリスト教信仰を感じることができました。
- ・発声もそろっていて、よく練習がゆきとどいている。
- ・とてもよかった。とくにティンパニ、チェロ、コントラバス等。響きがとてもきれいだった。
- ・いつもながら、あたたかい演奏でした。

<要望>

- ・年代別・時期別の演奏会もおもしろそう。
- ・今回のような、季節にあわせた選曲。
- ・女声合唱、がんばれ。
- ・独唱者は、しっかりと歌詞をおぼえて、楽譜を見ないで歌えるくらいにしてほしい。迫力不足で、体調不良なのかと心配する。
- ・音楽の専門用語に解説がほしい(プログラム)
- ・これからも日本語演奏をお続けください。

お・た・よ・り

清水佐智子さま(後援会員)

お心のもった素晴らしい演奏をありがとうございました。心が傷つく事の多い日々ですが、温かい愛に満ちた2時間は、本当のクリスマスでした。癒しと新しい命を与えられたことを感謝しております。御祝福を祈りつつ。

小杉茂雄さま(後援会員)

非常に素晴らしい演奏で感動いたしました。とくに後半は堰を切ったように全力で、まさに爆発のように声量があふれ、しかもしっかり統制され、発音もはっきり聴きとれ、圧巻でした。

いつも変わらぬオーケストラの方々の名演と相俟って、近来にない名演奏会であったと、感激ひとしおでした。

訂正：

前号(522号)掲載の丸山真人氏文中、「10月20日の朝日新聞の書評で」(p.2、3行目)とあるのは、「11月20日の...」の誤りでした。